

Leaders TOPICS

私のリーダー会 今昔物語

生物部会 日下部雅省



■そもそもの始まりは

11月の生物部会の例会で、広報担当の岡田さんから原稿依頼を受けました。帰宅し過去の「リーダーズトピックス」を見て、格調高いメンバーが、格調高い内容の原稿を投稿して居ることを再確認しました。

私は、博士でも学者でもありません。ただ、会社のため、組織の為、ラインの最先端で沢山の客を抱え、沢山の予算を抱え、沢山の下請けを使って第一線で動いていただけの人間で、中身はありません。

その中で、ある事故のためテレビに登場させられたり、昭和天皇がらみの仕事を仕方なく請け負ったり、通常国会のスケジュールに合わすべく法律改正の原案作りの為5か月ほど帰宅もままならない強烈な仕事をさせられたり等、多くの武勇伝を経験してきました。

67歳の時、退職手続きをしに本社に行ったとき、会社の広報部から「日下部さんは現場が長かったし、営業では神奈川県を担当もしていたので、県の温暖化防止の推進員になってほしいのです。そして、会社に県や他社の情報をいただけるとありがたいのですが」の一言がありました。これが何となく推進員に、そしてリーダー会に入会したそもそもの切っ掛けになったのです。

■自然に流されて

昭和45年ころ、大気汚染防止法、水質汚濁防止法が初めて公害対策の法律として制定された直後、長い工場生活から営業に回されました。環境にやさしい商品を販売する営業マンとしてスタートしたのです。販売したい商品は、値段が他品目に比べてかなり高い商品でしたが、時期が良く、かなりの成果を上げることが出来ました。



洋光台サイエンスクラブの子どもたちと筆者

そしてまた、この定例会で使用している県民センターも、あの洋光台の地も深く仕事でかかわった場所でしたから思い出もあり、第2の人生として歩もうとしていた私にとってリーダー会は極めて適切な場所だったような気がしています。

■こんな話があったので紹介します

1年くらい前のこと。私の家の近所の母子が吉岡塾に参加しました。2~3回来たと思います。バッチを受け取るレベルではありません。その一家が先日、転居の挨拶に我が家に来られました。その時、母親が「この子、最近、環境問題に興味を持ったらしく、将来その方向を目指して勉強したいと言っているんです」とだけ言ってお帰りになりました。

吉岡チームの話を聞いて感動して決心したわけではないと思いますが、母親の圧力でそうなった訳でもなさそうです。こんな話を一つ聞くと嬉しいものです。皆さんとともに喜びたいと思います。

私達は長い時間をかけて沢山の子どもたちと触れ合ってきました。最初に接した子どもは、今何歳位になっているのでしょうか。10年、15年前のお兄さん、お姉さん達の「進路や趣味の持ち方」など知りたい所です。先輩のこうした調査結果でもあれば、毎回実施しているアンケートのデータとともに我々の進めたい学習の方向付けを、精度よく教えてもらえるのではないかなと思うのですが難しそうですね。

■着地はスムーズに

私が所属している「遊びの会」の会長は、40歳後半の脂の乗り切った小学校の教諭です。彼は私に、こんなことを言いました。「日下部さんは環境面で、とても良いことをされていますね。」(私達は子どもたちに教える努力をしているのでなく、子どもたちが何かを感じてもらえるような話を進めているだけです)「日下部さんの活動は、オレたちの理想の教育なんです。でも、オレ達にはとてもできません。あまりにも時間と人間、そして場所が足りないからです。」

彼のこの言葉を聞いて、我々の今やっている仕事、方向は間違っていない。と納得しながら毎月、毎月、洋光台で頑張っている次第です。